

熊本市地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進にかかるモデル事業について

1 地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進の必要性和意義

こどもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、教育改革、地方創生の観点からも、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されている。地域でどのようなこどもたちを育て、何を実現していくのかという目標やビジョンを、学校と地域住民等とが共有し、地域と一体となってこどもたちを育む「地域とともにある学校」へ転換していくことが重要とされている。

2 めざす姿

- 地域と学校が目標やビジョンを共有し、社会総がかりでこどもの学びや成長に関わる「こどもまんなか社会」の実現。
- おとなもこどもも学校や地域の課題を自ら考え、主体的に解決し、よりよい社会を創造するための資質・能力を育む。

3 モデル事業の目的

地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働し、学校と地域を取り巻く課題解決のための組織的・継続的な仕組みとなる「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール(学校運営協議会を設置した学校)」を一体的に推進することによる成果と課題を検証し、本市での本格実施につなげるため。

4 事業概要

モデル校に学校運営協議会をシミュレーションする拡大評議員会¹を設置し、こどもを含めて、学校が地域住民等と目標やビジョンを共有しながら、学校運営や地域連携について協議していく。また、地域学校協働活動コーディネーター(以下「地域コーディネーター」という。)を配置し、学校と地域等との情報共有や連絡調整を担うことで、地域学校協働活動の充実やこどもの多様な学びに繋がる取組として検証を行っていく。

拡大評議員会¹:地域コーディネーター、学校や地域の特色を生かした人材が加わるもの

メンバーは校長の求めに応じて構成する ※太線囲みは必須メンバー

委員構成 (例)



5 熊本市らしさのポイント

(1) こどもの参画に向けて

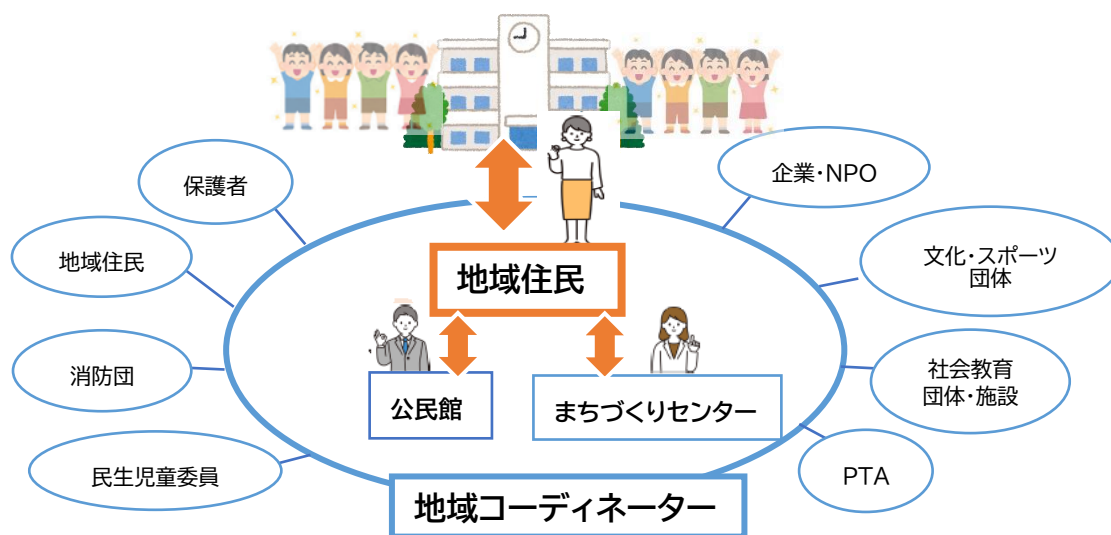
こどもの意見や考えが学校運営や地域づくり等に反映されるような取組を実施する。

- ① 拡大評議員会で児童会・生徒会などの取組を知らせる。
- ② こどもたちとおとなの委員との対話の場を設ける。
- ③ 学校運営や地域づくり等に参画する。



(2) 地域と学校をつなぐ地域コーディネーターの設置

地域住民と公民館(社会教育主事)とまちづくりセンター(地域担当職員)が、3者で学校と地域をつなぐ役割を担う。



6 モデル校の取組状況(10月現在)

モデル校 4 校



健軍東小学校



城南小学校



武蔵中学校



必由館高校

➡希望校16校

(理由:体験・交流活動の充実、学習支援、環境整備、教師の働き方改革、災害・防犯対策、持続可能なコミュニティづくり等)

(1) 学校教育目標の共有

小学校・中学校

グループ協議、意見交換（教育活動や地域行事等について）



児童集会で目標の共有



学校と地域の実態を共有



学校教育目標の具現化

必由館高校

熊本市教育エコシステムの中からコンソーシアム²委員を選出している。社会との連携がより良いものになるよう、学校と社会が共に参画し、学校内外の体制、関係性、環境の整備を準備していく。

コンソーシアム²：高校と地域がつながり高校魅力化のための活動を行うための組織

- ➡学校・地域・保護者が、目標やビジョンを共有し、それぞれの立場で具現化するアイデアを考え、思いを出し合った。（高齢者や幼児とのふれあいの場の設定、eスポーツ等）
- ➡学校と地域の活動や行事についてすり合わせることで内容の見直しができた。（公園の清掃ボランティア活動から竹灯籠づくりに発展し、地域行事のきっかけづくりとなった）

(2) こどもの意見表明

①こどもとおとなとの協議（城南小学校）

こどもとおとなの意見をつなぐファシリテーターが進行し、6年生が考えた「みんなが光輝くまちづくり大作戦」のアイデアについてワークショップを行った。今後、こどもたちのアイデアを基に熟議をする予定。



笑顔いっぱいの校区にしたい



顔見知りのおとなとの話し合い

→こどもたちが、幸せな校区にするにはどうしたらよいかを提案したことで、地域の活性化にもつながることが期待される。（通学路を花いっぱいにする、一人暮らしの高齢の方と話す、運動イベント等）

②こどもたちと町内代表者との熟議（武蔵中学校）

こどもの司会進行により、地域の危険箇所や、どのようにして地域をよくしているか等、活発な熟議が行われた。



各町内に分かれて熟議



地域の危険箇所を確認

→こどもとおとなが地域の課題を共有し、互いに顔の見える関係づくりができた。

→こどもが意見を表明しやすい雰囲気があり、地域をよりよくするためには何ができるかと活発な意見が出た。

(3) 地域学校協働活動の実施状況



熊大生との「マット運動」(3・4年生)



防災ポシェットの贈呈(1年生)



校区の魅力を伝えよう(5年生)



地域の方とわなげ大会(6年生)

授業支援	町たんけんの補助・野菜づくり・手縫い・ミシン等
出前授業	公民館・まちづくりセンター・市街地整備課・熊本市障がい者相談支援センターきらり・文化スポーツ財団・社会福祉協議会・高齢者サロン・水産会社・熊本大学・市役所各課
講話	職業講話・平和講話・防災講話
地域行事	綱引き大会・泥んこフェスティバル・七夕飾り・校区夏祭り等

- ➡授業に多様な人材が関わることで、こどもたちの学習への興味関心が高まった。
- ➡保護者や地域による学校支援活動が活発になることで、学校に対する理解が深まった。また、学校を核とした地域のつながりが広がった。
(健軍東小学校支援ボランティア人数：R5 年間 138→R6 上半期 162)
- ➡地域コーディネーターが、ボランティアの募集や連絡・調整、活動の企画等を担うことで、教職員の働き方改革につながった。

(4) 教育課程の見直し

社会教育主事とまちづくりセンター地域担当職員が、教職員に公民館講座や地域人材の紹介をし、各教科等の年間指導計画を見直した。

➡公民館・まちづくりセンターの自主教材、水産会社、自動車会社、大学等が授業に協力など

7 これまでの取組における成果と課題

【成果】

- 地域コーディネーターの活動により、教科学習や地域学習が多様になり充実したものになっている。
- こどもとおとなとの関りが増えたことで、やりがいや生きがいにつながっている。
- こどもの意見や考えを取り入れたことで地域の活性化につながりつつある。
- 地域コーディネーターが地域と学校をつなぎ、地域学校協働活動等の取組が充実し、マンパワーの確保につながっている。

【課題】

- 必要な予算措置（地域コーディネーターの連絡・調整における手段と時間への対価）
- 学校管理職、教職員へ制度理解を図るための研修会実施

8 今後のスケジュール

- 令和7年度は、現4校のモデル校に数校加える。
- 令和8年度以降も、モデル校での取り組みを検証していく。
- 熊本市教育振興基本計画 R9 年度目標値 16 校（地域学校協働活動推進員を配置する学校数）